令和６年３月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第715号

林業福島

No. 715

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会　長　小檜山善継

3
2024

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■Wood Chips

山村地域の再生に向けて

福島県町村会長
塙町長　宮　田　秀　利

森林・林業関係者の皆様には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに対しまして、心から敬意を表するものであります。

はじめに、今年元日の能登半島地震におきましては、石川県を中心に甚大な被害が発生いたしました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

自然災害は全国各地で毎年のように発生しております。特に近年の自然災害は頻発化・激甚化しておりまして、一旦、災害が発生すれば、その被害は甚大となることから、防災・減災・国土強靭化は急務でありますので、町村がこれら取組を着実に進められるよう、安定的かつ十分な財源の確保などを引き続き国に対し求めてまいる所存であります。

さて、自治体の森林整備に活用される森林環境譲与税でありますが、来年度から森林面積の譲与割合が引上げられ、森林を多く抱える自治体により多く配分されることとなりました。

本税は、森林・山村地域の自治体の長年にわたる運動を経て、地球温暖化防止や災害防止等を図るために創設され、令和元年度からの譲与開始以降、間伐等の森林整備や木材利用の促進、普及啓発等に充当され、その取組実績は着実に増加しており、特にこれまで放置されてきた森林について、所有者の意向調査や境界確認、人材育成や担い手の確保への活用が進んでいるところであります。

令和六年度からは森林環境税が導入され、広く国民の皆様にご負担をいただくこととなりますので、森林の現場に最も身近な町村は、この貴重な財源を十分に活用して、森林整備等にさらに取り組んでいかなければならないと考えております。

また、令和六年度末には現行の山村振興法が期限を迎えます。引き続き山村地域の振興・発展を図るため、新たな国土形成計画や食料・農業・農村基本法の見直し等を踏まえ、内容を充実して法律を延長するよう国に求めてまいります。

福島県町村会といたしましては、今後も関係団体との連携を強化しながら、山村地域の再生に向けて取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《も　く　じ》

とびら
山村地域の再生に向けて
　福島県町村会長　塙町長　宮　田　秀　利…1
令和５年度林業研究グループ等活動発表会・
林業普及指導員全体研修会を開催しました……2
緑の募金のご協力、よろしくお願いいたします
……3～4
森林土木研修会を開催しました……5
「第７回伐採搬出・再造林ガイドラインサミット
福島大会」が会津美里町で開催……6
林業アカデミーふくしま研修日誌⑩……7
普及指導員通信……8
森連だより……9
きのこセンターだより……10
木の文化を育む⑥⓪……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

令和五年度林業研究グループ等活動発表会・林業普及指導員全体研修会を開催しました

福島県森林計画課

令和五年度林業研究グループ等活動発表会を令和六年二月一日(木)に、県林業研究センター研修本館で開催し、県内各地の林業研究グループをはじめ林業関係者等約六〇名が参加しました。

例年この発表会では、県内各地の自主的な実践活動を行っているグループの代表がその取組を発表することにより、各林業研究グループの活動の展開に資することを目的に開催しており、今回は五団体から、森林環境学習や体験活動など、様々な活動について発表がありました。

審査会の結果、最優秀賞には五十嵐乃里枝さん（一般社団法人会津自然エネルギー機構）、優秀賞には丸山邦英さん（しらかわ本沼花見山づくり会）、特別賞には星祐治さん（舘岩グリーンフォレスター）が選ばれました。

午後には、テクノアカデミー浜および郡山女子大学の学生により森林自己学習支援事業成果報告が行われました。

また、報告会ののち、ＮＰＯ法人遠野エコネット代表理事の千葉和氏より、「森林資源を活かした地域づくり　遠野エコネットの活動から」と題して、ご講演いただきました。

各林業研究グループの発表課題は、次のとおりです。

●あぶくま地域・木炭産業再構築に向けた次世代の担い手育成事業
（あぶくま木炭産業再構築協議会　鈴木　金一）

●美しい里山自然環境を後世に残す取組
（しらかわ本沼花見山づくり会　丸山　邦英）

●次世代に伝えたい　木こりの技！山学校から特殊伐採技術伝承事業を通して
（一般社団法人会津自然エネルギー機構　五十嵐　乃里枝）

●～森林（もり）への誘い～　森林環境〝共育〟への取り組み
（舘岩グリーンフォレスター　星　祐治）

●心ゆたかな　里山づくり
（林林倶楽部　荻野　裕剛）

令和六年二月二日(金)には、令和五年度林業普及指導員全体研修会を開催し、県内各地の林業普及指導員をはじめ林業関係者等約八〇名が参加しました。

今年は、県内の各林業普及指導地区の代表者七名がＩＣＴ技術の活用、特用林産物等の推進など普及活動の成果を報告し、それぞれの発表に対し活発な質疑が交わされました。

発表会の審査の結果、最優秀賞には芳賀亮汰さん（南会津農林事務所）、優秀賞には石井達也さん（県北農林事務所）が選ばれました。

午後には、林野庁経営企画課環境保護企画係長の小林正典氏より、「国有林におけるニホンジカ被害対策」と題して、ご講演いただきました。

各林業普及指導地区からの活動発表課題名は、次のとおりです。

●３Ｄモデルを活用した安全な伐採作業に向けた取組について
（県北農林事務所　技師　石井　達也）

●小学生を対象とした木工教室による普及啓発について
（県中農林事務所　主査　内田　守）

●広葉樹林再生事業の推進について
（県南農林事務所　副主査　黒澤　文彦）

●会津管内における優良なスギコンテナ苗生産に向けた取組について
（会津農林事務所　技師　花田　真紀子）

●森林経営管理制度の市町村支援と着実な森林整備の実行に向けて
（南会津農林事務所　技師　芳賀　亮汰）

●双葉管内における木材のサプライチェーンの構築
（富岡林業指導所　主任主査　水野　俊一）

●いわき地区における特用林産の振興に向けた取り組みついて
（いわき農林事務所　技師　白川　浩司）

講演の最後に『間伐ブルース』を披露

林業普及指導員の活動発表の様子

令和６年度
緑の募金のご協力、よろしくお願いいたします

緑の募金の実績

令和５年度の緑の募金につきましては、春季運動期間（４～５月）は、まだコロナ渦であったにもかかわらず、これまでのところ（４月～１月分集計）、下記のとおり4,795万円（前年度実績5,287万円）のご寄付をいただきました。多くの皆様方の善意に厚く御礼申し上げます。

緑の募金は、緑豊かな潤いある美しいふくしまを目指し、緑化の推進、森林の整備、次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに活用させていただいており、地球環境の保全、地域の緑化環境の整備、緑化運動への理解醸成等に貢献しています。

令和６年度の「緑の募金」春季募金推進期間は、例年どおり４月１日から５月31日までとなりますが、引き続き緑の募金を活用した幅広い分野における緑化運動を展開してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和６年の国土緑化運動標語

「未来へと　広がれ緑　この手から」

標語　渡辺　虎青さん（福島県立相馬農業高等学校３年）

〒960-8043
福島市中町５－18　福島県林業会館内
（公社）福島県森林・林業・緑化協会
（緑化推進局　緑化推進課）
TEL 024-524-1480　FAX 024-521-3246

令和５年度「緑の募金」実績（令和５年４月１日～令和６年１月31日）

（単位：円）

市・地方緑化推進委員会	募金の種類					計
	街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金	
福島市緑化推進委員会	36,634	0	1,503,604	763,086	1,087,503	3,390,827
伊達市緑化推進委員会	651	1,643,440	222,800	141,622	41,331	2,049,844
伊達郡緑化推進委員会	27,655	988,505	242,000	90,859	32,417	1,381,436
二本松市緑化推進委員会	8,323	1,401,600	10,000	241,250	230,353	1,891,526
本宮地域緑化推進委員会	23,401	945,900	293,865	85,222	63,504	1,411,892
国土緑化郡山市推進委員会	0	0	0	0	0	0
須賀川市緑化推進委員会	9,920	0	0	354,560	222,200	586,680
国土緑化岩瀬地方推進委員会	0	467,500	2,029	68,845	27,887	566,261
田村市緑化推進委員会	1,919	944,500	309,539	211,505	20,900	1,488,363
田村地方緑化推進委員会	0	847,900	50,000	170,834	0	1,068,734
国土緑化石川地方推進委員会	18,725	1,030,900	277,181	159,869	266,852	1,753,527
白河市緑化推進委員会	17,039	1,125,032	518,207	243,820	0	1,904,098
国土緑化西白河地方推進委員会	3,747	1,358,110	375,390	204,905	34,714	1,976,866
国土緑化東白川地方推進委員会	112,889	682,700	179,892	195,586	46,685	1,217,752
国土緑化会津若松市推進委員会	0	3,535,350	493,024	686,632	380,693	5,095,699
両沼地方緑化推進委員会	3,757	1,254,870	69,775	206,239	0	1,534,641
会津耶麻地方緑化推進委員会	699	842,900	121,900	164,187	104,548	1,234,234
喜多方市緑化推進委員会	11,366	1,413,300	471,500	495,683	0	2,391,849
南会津地方緑化推進委員会	29,448	1,230,400	23,560	165,347	24,467	1,473,222
相馬地方緑化推進委員会	27,271	1,085,373	15,104	558,428	0	1,686,176
双葉地方緑化推進委員会	0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	7,326	8,103,973	858,644	1,571,800	335,773	10,877,516
小計	340,770	28,902,253	6,038,014	6,780,279	2,919,827	44,981,143
事務局	190,762	393,070	1,678,065	672,143	44,091	2,978,131
合計	531,532	29,295,323	7,716,079	7,452,422	2,963,918	47,959,274

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む

【緑の募金の活用】

皆様から寄せられました家庭募金や企業募金、職場募金や学校募金などは、県内の各市・地方緑化推進委員会を通して当緑化協会に送金いただき（右頁の表）、このうち約６割の額を各市・地方緑化推進員会へ交付し、それぞれの地域に応じた緑化事業を行っております。

また、当協会においては、県内一円を対象とした緑化活動事業を行っております。

【実施事業】

１　森林の整備　①普及啓発　②森林の造成・保育　③環境保全ほか　（苗木や作業用具等の購入に要する経費など）

２　緑化の推進　①普及啓発　②地方植（育）樹祭の開催　③学校、公共施設等の環境整備　④緑の少年団活動　⑤園芸教室等の開催ほか　（公共施設等の環境緑化に要する経費、緑の少年団等の活動経費など）

【緑の募金の活用事例】

⑴　小・中・高校生や地域のNPO法人が、花苗の定植や花壇づくりにより学校や公共施設の環境整備を推進することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。

小学生による花壇整備

中学生による花壇整備

⑵　県内各地で森林づくり団体等が、植栽や下刈りなどの森林整備活動を行うことで、自然災害の防止や地球温暖化防止等に貢献しています。

森林づくり団体による植樹作業

植栽された桜

⑶　県内の各市・地方緑化推進委員会が「地方植樹祭」を開催することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。

地方植樹祭（白河市）記念植樹

地方植樹祭（西会津町）植樹作業

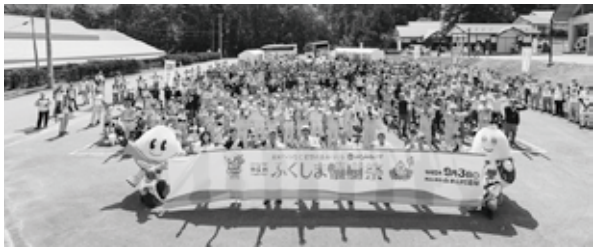
⑷　今年度は小野町で開催した「第35回ふくしま緑の百景歩こう会」の参加者に、緑化苗木を配布することで、緑化の重要性を普及しています。

歩こう会スタート

苗木配布

⑸　平成30年に開催された全国植樹祭の理念を引き継ぎ、「未来へつなぐ希望の森林づくり」をコンセプトに今年度は南会津町の会津山村道場で「第６回ふくしま植樹祭」を開催し、植樹・育樹活動を行いました。

また、会場に緑の募金ブースを設け、募金をお願いしました。



第６回ふくしま植樹祭（南会津町）集合写真

植樹作業

緑の募金ブース

森林土木研修会を開催しました

福島県森林土木建設業協会
(公社)福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林土木建設業協会と公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会は、令和六年一月三〇日(火)ふくしま中町会館において、森林土木研修会を開催しました。

研修会には、福島県森林土木建設業協会会員企業と(公社)福島県森林・林業・緑化協会市町村会員、合わせて約四〇名が参加しました。

研修の前半は『森林土木事業におけるＩＣＴの活用について』と題して、福島県農林水産部の担当者から講義を受けました。

はじめに、県農林技術課宗形副課長兼主任主査から、工事にＩＣＴが必要とされる背景、ＩＣＴ活用工事の流れ、その際の費用計上の方法等について説明がありました。

ＩＣＴ活用工事には、五つの施工プロセス全段階でＩＣＴを活用する「全プロセス実施型」と、各段階で選択してＩＣＴを活用する「プロセス選択型」があり、いずれの場合もＩＣＴ施工数量を正しく積算に反映させるために、日々の台数管理が重要であるとのことでした。

次いで、県森林整備課藤井主任主査から、現在、林道事業で施工されているＩＣＴ活用工事について説明がありました。当該工事で実際にＩＣＴ活用施工を担当している㈱利根川組大関事業部工事課主任も参加し、対話形式で説明がなされました。

機械の設定や固定局の設置など新たな作業も増えますが、実際に行ってみるとその正確さと作業の効率化は、これまで人力で行っていた場合とは比べものにならない。これからＩＣＴ活用工事を導入したいと考えている市町村・企業にあっては、最寄りの県農林事務所にご相談いただきたいとのことでした。

後半は、㈱草野測器社ＩＣＴ事業グループ阿部サブマネージャーを講師に『森林土木事業におけるＩＣＴについて』と題して、工事で使用されているＩＣＴ設備、それぞれの工程で使用されている機材・ソフト、またその選定のポイントについて講義を受けました。

ＩＣＴ技術は日々進化しており、それに伴いＩＣＴ設備も簡単で分かりやすく安価になっている。今後はＩＣＴ技術を抜きに生産性の向上は見込めなくなる。ＩＣＴ技術に早く取り組み、社内にノウハウを蓄積していくことが重要である。ＩＣＴ設備を導入する際には、所有している機材やソフトとのマッチングに留意する必要があるとのことでした。

ＩＣＴという喫緊の課題に、参加者は今後の取組も視野に熱心に聴講していました。

石川会長挨拶

研修会の様子

福島県農林技術課 宗形副課長兼主任主査の講義

福島県森林整備課　藤井主任主査と
㈱利根川組　大関業務部工事課主任の説明

株式会社草野測器社ICT事業グループ
阿部サブマネージャー様の講義

「第七回伐採搬出・再造林ガイドラインサミット福島大会」が会津美里町で開催

福島県素材生産協同組合

去る二月九日、伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議と福島県素材生産協同組合の主催による「伐採搬出・再造林ガイドラインサミット」を会津美里町複合文化施設「じげんプラザ」にて開催しました。

このサミットは、全国的に森林資源が充実し、主伐施業が増加傾向にある中、適切な伐採と着実な再造林を促進するため、事業者の自主的な規範を高め、持続的な循環型施業を構築することを目的に、二〇一七年に宮崎県で第一回が開催され、鹿児島県、岩手県、島根県、東京都、徳島県に続き、福島県での開催となりました。

遠くは九州から県内外約一八〇名の参加のもと、林野庁長官、福島県知事、会津美里町長を来賓に招き、基調講演と特別講演、パネルディスカッションを行いました。その概要は以下のとおりです。

□基調講演　「利用期を迎えた国産材の循環利用」

講師　全国木材組合連合会副会長
元林野庁長官　本郷　浩二 氏

現在の森林経営が苦境となった大きな原因は、収入が持続しなかったことである。補助金で森林の整備・保全を何とかつないで来たが、間伐を続けていく政策ではじり貧になる。伐って、使って、植えて、育てる循環型の資源利用に転換し、林業と山村社会を再生し維持できるように毎年収入を得続ける林業を目指す必要がある。

□特別講演　「環境と森林
―主伐再造林と環境創造―」

講師　早稲田大学法学部教授
元環境事務次官　森本　英香 氏

現在の環境危機は、気候変動よりも生物多様性の損失の方が、人類に及ぼすリスクが高く、人間が安全に活動できる範囲を超えるレベルに達している。社会・経済の基礎となる森林は「資源」である前に「資本」であり、生物多様性・脱炭素・循環経済が重要なキーワードである。カーボンクレジットやグリーンリカバリー（緑の復興）などの新たなプレーヤーによって、森林の価値を変える取組みが必要である。

□パネルディスカッション
「主伐再造林の確実な実行と
未来に誇れる林業事業体の姿」

福島県素材生産協同組合の渡部一也理事長をコーディネーターに、四名のパネラーの日頃の活動を通して、新しい森林の価値など活発な発言を頂きました。

○デロイトトーマツグループ　北爪　雅彦 氏

日本の家族制度が崩壊し核家族化したように林業も個人の事業としては承継できなくなっており、何か仕組みを考えないといけない。林業の収益基盤のベースをつくり、作業の仕方も理にかなった形に変えることで林業も効率化、収益化を目指せると考えている。また、組織化とその組織をリードできる人材育成も重要で、山形県の白鷹町で林業を通じた地域創生の実践に取り組んでいる。

○サステナブル経営推進機構　壁谷　武久 氏

地球温暖化等の社会的課題は企業にとっては経営リスクであったが、今はその課題に立ち向かうことで新しいビジネスがつくれる時代。環境負荷についても資源から製造加工、廃棄リサイクルに至る各段階で自然環境への影響を数値化が可能で、木材は再生可能な資源ということで大きな花形である。ガイドラインを民間主導で作られたように現場の皆様が対話の努力をされ、新たな活路を見いだせば、将来サステナビリティなビジネスモデルの実現は可能である。

○ＮＰＯ法人ひむか維森の会　黒田　仁志 氏

宮崎県のスギの素材生産量は平成三年から日本一。当時、大きな台風による風倒木処理のために高性能林業機械の導入が進み、生産量が八〇万立方㍍から大幅に増加したが伐採後の植栽が追いつかず、台風時に木材が流れ出て養殖地の漁網に大きな被害が発生してしまい、今まで本当に山を守ってくれていると信じてくれていた漁業者を裏切ってしまったのが契機となり、若手の素材生産事業者が検討を始めたのがスタート。国が法律等で締め付けるようなものでなく、自らの行動規範としてガイドラインを策定した。詳しくは全国連絡会議のホームページをご覧ください。

○モクティ倶楽部　根本　昌明 氏

本業は全国のホームセンター等で販売する木工品の製造メーカーで、三・一一の震災の影響により取引が停止し国内から海外市場の展開を模索する中、ジェトロの紹介で桧のまな板の世界行商を開始。その中で環境と持続可能な社会に関する海外との考えにギャップを感じ一般社団法人モクティ倶楽部を設立した。エシカル消費による再造林支援と合わせ力を入れているのが森林認証の推進で、生産性向上だけでなく山での事故が極端に減るという事実をお伝えし、林業従事者が増えて皆がハッピーになれるような活動を福島から発信していきたい。

最後に渡部コーディネーターからは、少し逆転の発想も入れながら最前線で活躍できる森林林業・木材業界として世界に目を向けていきたい。そうすることで我々も目先のことだけでなく、将来に向けた意欲や能力、やる気のある人達が集まってくれると思う。学校で子ども達に環境教育を行う際に、人間は何のために生きているのかと問うことがあり、お金を稼ぐためじゃなく、木を植えるために生きていると話すことがある。一度頭を切り替えてみることで違うものが見えてくる。新しい価値観がビジネスにつながり、みんながハッピーになり、災害にも強くなり、いざという時に日本の底力が膨大な森林資源を通してみんなが連携し、電気のネットワークグリッドでなく、森林のグリッドができれば面白いと締めくくられました。

会場の参加者の皆様も通常の技術的な話に止まらず、先端産業としての林業の未来を描く多方面からの話題に熱心に聞き入り、今後の主伐再造林の進め方や未来の素材生産業の姿を考える有意義な時間を過ごすことができたと考えております。

本大会の開催に当たり、ご協力を賜りました関係行政機関、関係団体の皆様に改めて御礼を申し上げます。

渡部理事長挨拶

パネルディスカッション

会場風景

林業アカデミーふくしま研修日誌⑩

福島県林業研究センター

就業前長期研修十ヶ月目の一月は、三回目最後のインターンシップがありました。全員が就職に向けて動き出すと同時に、いよいよ研修修了が近づいて参りました。

○一月の研修内容

「チェーンソー伐木造材技術」では、林業研究センター敷地内のスギとヒノキ林の間伐を行いました。畑と隣接した場所だったため、ロープで伐倒方向に引っ張りながら一本一本丁寧に伐倒しました。一年間学び続けてきたこともあり、各々考えながら伐倒の一連の動きをできるようになりました。

「林内路網」では、バックホーの操作実習を行い、法面の転圧練習と十二月の作業道作設実習で浮き彫りとなった各々の課題に取り組みました。また、二月から始まるフォワーダ、グラップル、プロセッサ、スイングヤーダの操作実習に向けて、基本操作の習熟に努めました。

今年度最後の「安全の基礎」の講義では、「人間は間違う生き物」をテーマに、今後の林業人生を安全に長く続けていくために意識すべき、十種類のバイアスなどについて学びました。

「就業体験（インターンシップ）」では、希望する就業先でより実践的な現場に触れることができました。インターンシップ終了後は発表会を行い、研修生同士で事業体によって事業内容が様々であることや、地域ごとの特色について学びを深めました。

「高性能林業機械運転技術」では、二月から始まるフォワーダ他三種の操作実習に向けて、メンテナンス方法や機械トラブルの対応、事故事例などを学びました。

○研修生の感想　塩田天空さん

一月には最後となる九日間のインターンシップがあり、私は猪苗代町の六和林業さんにお世話になりました。チェーンソーを使用した造材のほか、作業道を入れた後に書類を提出する為の測量や写真撮影、立ち会い検査にも同行させていただきました。

教科書に書いてあることがそのまま実行されているのではなく、事業体や施行地ごとに安全・効率化を求めて工夫されていることがアカデミーと現場の大きな違いであると学ぶことができました。

知識的な勉強が出来た一方、自身の体力の無さ、安定しない技術など現場に立つにあたって避けられない肉体的な部分で課題が多く見えました。

これからの長い林業人生、怪我なく誰にも負けないつもりで精進して行きます。

○研修生の感想　田村愛翔さん

林業アカデミーふくしまで研修を始めて十ヶ月が過ぎました。

一月の研修内容で印象に残っているのはインターンシップで、須賀川市のネイチャーリバイブさんにお世話になりました。

作業内容は造材・玉切り・伐倒で、アカデミーの講義だけでは学ぶことの出来ない、事業体で働いている人たちの林業に対する考え方ややり方などを教えて貰うことができ、自分のスキルアップに繋がったと思います。

そして、現場の空気を感じてみて思ったことは、効率よく安全に作業をこなしていくことです。

残り少ない研修期間を通して、インターンシップで出来なかったことを集中的に練習していきたいです。

ロープで引っ張りながらの伐倒

法面の転圧練習

普及指導員通信

いわき地区における原木きのこ生産振興に向けた取組について

福島県いわき農林事務所
林業普及指導員　白　川　浩　司

１．はじめに

いわき市は、菌床しいたけの生産量が県内１位、菌床なめこの生産量が県内２位と、菌床きのこ栽培が盛んな地域です。一方、原木きのこ栽培は、福島第一原子力発電所事故（以下、原発事故。）の影響により、生産者の多くが生産休止や廃業を余儀なくされたことで生産者数が激減し、原木しいたけの生産量は震災前の１／20以下になりました（令和６年３月時点）。

そこで、原木きのこ栽培の生産者数及び生産量を増加させることを目的とし、生産者に対して実施した指導や支援について紹介します。

２．これまでの取組

新たに生産を始める生産者や生産再開を希望する生産者に対して、原木きのこ栽培の現状や出荷までの手続きに関する指導及び資材検査に関する支援を実施しました。

いわき市内で伐採された原木でも指標値を超える場合があることを説明した上で、出荷の意志がある生産者に対して指導及び支援を実施しました。原木きのこを出荷する場合、種菌を打つ前の原木から３本程度抽出して検査を行い50Bq／kg以下であることを確認後、植菌後に菌が原木内に回った状態のほだ木でも３本程度抽出して再度検査を行います。ほだ木でも50Bq／kg以下であれば、発生したきのこのモニタリング検査を実施し、100Bq／kg以下であれば出荷することができると指導しています。指導に当たっては、農林事務所でチラシを作成し、生産者を個別訪問しています。

検査に当たっては、資材検査の生産者負担を軽減するため、農林事務所が原木やほだ木をそのまま回収し、合庁の倉庫でチェーンソーを使用して検体用のおが粉に加工する作業を行いました。

また、生産者の中には、JA等で簡易的なきのこの放射性物質検査を実施し、100Bq／kg以下だった場合、出荷することができると思っている方もいるため、まず県のモニタリング検査を実施し、安全性を確認した上で出荷するよう依頼しています。

３．今後の展開

原発事故から12年経過した今でも、原木から指標値を超える放射性セシウムが検出されることがあり、令和５年度に原木やほだ木の検査を行った６名のうち、３名は使用ができない状況です。原木の放射性セシウムが自然に下がるには相当な期間を要することから、出荷を目指している生産者については、原木を会津地方や県外といった他の地域から調達する、原木の下にシートを敷いて追加汚染を防止する等、栽培方法を根本から変える指導も必要と考えています。

また、原発事故以降、栽培きのこは出荷できないと思って生産を休止している生産者もいるため、モニタリング検査について周知を行い、生産を再開する生産者を支援していきます。さらに、栽培や検査に関する支援だけでなく、関係団体等が示す最新の栽培方法や研修等に関する情報提供、生産者同士が情報共有できるような場を設けることにより、生産量や生産効率を上げるきっかけとし、いわき地区の原木きのこ栽培の振興に向けて取り組んでいきます。

生産者に対する指導の様子

原木をおが粉にする作業の様子

森連だより

20年後、福島の山に木はあるのだろうか ～林業トップランナーの地で考える皆伐再造林～

福島県森林組合連合会

一月十八日、早朝の羽田空港第一ターミナル。集合時間の一時間前、既に参加者のほとんどが揃っていた。当会で二泊三日の先進地視察研修を企画し、県内森林組合長九名が参加。向かう先は宮崎県、二〇年以上にわたりスギの素材生産量日本一、皆伐再造林についても二〇年以上取り組みをしている名実ともに林業先進地である。

羽田空港から宮崎空港へ向かう航空機は、あっという間に到着。外に出ると、春の様な暖かさと道路沿いに並んだフェニックスが目に入り、前日まで福島で着ていた上着が急に煩わしくなってしまった。

長友組合長をはじめ幹部職員の皆様に同席頂き、意見交換会

皆伐再造林地の現地視察

最初の視察先は西都市に本所を構える児湯広域森林組合。昨年十二月に竣工したばかりの新しい事務所に、参加者全員が感嘆の声を上げながら見学をした。みやざき材をふんだんに使った内装は非常に心地よい空間を作り出しており、宮崎県が認証する「みやざき材炭素貯蔵量認証制度」の認証第一号に選ばれている。地元産材の積極利用と炭素固定機能、様々な面において意義のある事務所の在り方は、ぜひとも参考にしたい。

その後、宮崎県森林組合連合会及び児湯広域森林組合の案内で、皆伐再造林の現場へ。最初に目についたのは、現場を囲んでいる黒い獣害防止柵。約一・七ヘクタールの現場に対して、五八八メートルの柵を設置しており、再造林へのハードルに加えて、獣害対策にもかなりの労力が必要であり、対策をしないと新芽はあっという間に食べられてしまうとのこと。また、皆伐をする際には、再造林がスムーズに行えるよう残材の集材などに努め、植え付け前に改まった地ごしらえを行わなくても作業に着手できるよう、工夫がされているとのことで、当県でも必要な共通認識ではないかと感じた。

組合事務所に戻り、それだけの労力をかけても再造林を推進するのは、森林組合の役目であり、自分たちが宮崎の森林を守らないと持続可能な林業は成り立たないと、長友組合長（宮崎県森林組合連合会長）よりお話しを頂いた。

皆伐再造林に計画的に取り組むことで、森林の持続的な更新を成し得ることは我々森林組合系統の使命であり、二〇年後に今ある立木がそのまま残っていても、皆伐後に再造林を行わずに木が無い状態でも、健全な山とは言えない。

福島の森林・林業・木材産業がどうなるか、未来を描けるのは分岐点に立つ我々次第であり、戦後初となる収穫期に大きな希望を感じた視察の初日となった。

研修のつづきは、当会の公式Instagramで。

FUKUSHIMA_MORIREN

公式Instagramのフォローお願いします！

きのこセンターだより

令和5年度福島県きのこセミナーの開催

(公社)福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター

令和六年二月七日(水)、郡山市の福島県農業総合センターにて、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会主催で「令和五年度福島県きのこセミナー」を開催いたしました。コロナ禍で中止や縮小が続いていた本セミナーも今年より通常開催となり、震災から十二年が経過した事による生産環境の向上と徐々に高まる生産意欲を反映してか、昨年度を上回る約九三名の栽培者と関係者の出席となりました。

講演内容は、その希少性と美味しさから県内での早期産地化を目指す「ふくふくしめじ（ほんしめじ）」について、県林業研究センターの久保智裕研究員より「ほんしめじ栽培の現状と課題」との演題で、産地の取組現状及び生産量、最新栽培技術のポイントや生産者の販売方法、最後に今後の普及にむけての課題などについてご講演をいただきました。つづいて、きのこ栽培で最も重要な原木とオガ粉の情勢、課題等について有限会社桜岡商事の金澤勝城氏より「国内オガ粉・原木供給状況と県産木の今後」と題し、県内のきのこ栽培用オガ粉の供給状況やオガ粉生産プロセスの説明、生産現場及び今後の課題などをご講演いただきました。

前半二題の講演後は原木等供給、指導関係者として、阿崎商店の岡部誠氏、福島県森林組合連合会の岡崎孝哉氏、県林業振興課の小椋佳氏より県産木（原木）利用状況及び今後の課題、計画についてそれぞれの立場でコメントをいただきました。三講演目は今日県内の生椎茸生産量の九七パーセントを占める菌床栽培について、森産業株式会社の鈴木康浩氏より「福島県に適した品種の紹介と栽培のポイント」と題し、周年栽培用で多収穫、良形質の菌床用椎茸推奨品種の紹介と県内での栽培のポイントの詳細をご講演いただきました。最後の講演は、株式会社矢川原天神ファームの門馬和雄氏より「復興からの菌床椎茸栽培の再開」と題し、相馬地区においての原発事故からの菌床椎茸栽培の再開で、再利用菌床（椎茸施設内栽培一回取りで廃棄予定の菌床）での循環型椎茸栽培方法（施設内一次発生→再利用菌床での発生→堆肥利用）のご講演をいただき、全講演後は種菌メーカーの財団法人日本きのこセンター、株式会社キノックス、北研株式会社、ＯＳＦ様より推奨品種の紹介と栽培者へのアドバイスをいただきました。

各講演内容は全て好評で、中でも久保研究員の「ほんしめじ栽培の現状と課題」と門馬氏の「復興からの菌床椎茸栽培の再開」については興味を示す参加者が多く、ほんしめじでは、新たに栽培したい、栽培技術を学びたいとの意見が聞かれ、門馬氏の講演では、安価な再利用菌床は何処で購入できるのか等、実際の栽培現場を視察したい等の問合せがありました。

最後に、ご参加の皆様からアンケート等でいただきました貴重なご意見・ご感想等につきましては、今後のきのこ振興センターの活動及び福島県きのこセミナーの企画・実施に活かしてまいりたいと思います。

主催者挨拶

きのこセミナーの様子（久保研究員）

木の文化を育む⑥⓪

木工で育む地域の未来 ～人の暮らしと地域のチカラに～（たまき木工所）

郡山女子大学　生活科学科　建築デザイン専攻　准教授　阿部恵利子

○はじめに

日本における「木の文化」は、自然と一体化した暮らしの中で育まれてきました。時代の流れと共に変化してきた人々の暮らしを顧みると、失われてしまった営みがあることに気づきます。日本人が営んできた古の暮らしや地域の伝統・文化に目を向け、様々なつながりを築くことは、新たな地域づくりの一歩となります。

○林野庁から木工の世界へ

たまき木工所（石川郡）代表　玉木陽祐さんは大学で林業を学び、卒業後は農林水産省の林野庁職員として勤務しました。将来は故郷の福島へ戻りたいと思っていた玉木さんは木工職人を志すため、林野庁の仕事を四年間で退職し、岐阜県の飛騨高山で二年間家具の製作・販売をしながら木工の技術を習得しました。令和四年七月に出身地の石川町へＵターンし、祖父の代から続く建具の家業を継ぐ決心をした玉木さんは、現在、建具のほか家具や立て看板、フォトフレーム、コースター、木の端材を活かしたオリジナル製品等を提案・製作しています。また、使い手の要望に耳を傾け、オーダーメイドの木製品の製作も受注しており、石川町で木工を生業として継いでゆく責任を感じながら「木工は目的ではなく手段。木工をとおして人々の暮らしや地域を変えていきたい」と玉木さん。モノづくりは何かを変えるチカラになると信じて、人と地域の心地よい暮らしを叶えるチカラになっています。

○人と人との交差点

積極的に地域のイベントに参加し、家具・クラフトの製造・販売をしている玉木さんは「木製品を通して人と人との交差点をつくりたい」と考えています。これまでに開催した一般市民対象の木工ワークショップでは、老若男女が集い、大人から子どもまで多くの人がモノづくりの楽しさを共有しました。またワークショップの参加者に地域のスイーツやコーヒーを提供することで、参加者がその美味しさを味わえる機会にもなっています。「木工ワークショップをしている心地よい空間と時間を今後も分かち合っていきたい」と玉木さん。自分と同じように、それぞれが得意とする分野のコト・モノを持ち寄って活躍する場をつくり、地域を盛り立てていきたいと考えています。

○モノづくりとＳＤＧｓ

木工ワークショップではこれまで「スプーン」や「クリスマスツリー」、「端材から作る木のしおり」などを製作しています。

クリスマスツリーは赤と白二色の木材を好きな大きさで組み合わせて製作するクリスマスカラーのツリーです。木のパーツを選び、磨いて、オイルを塗り、最後に陶器でできたオーナメントを飾り付けます。組み立てた木片は可動式で自分好みに造形を楽しめます。また、ＳＤＧｓにちなんだ商品の販売も行っており、家具をつくる過程で「虫食いの跡」「色が悪い」などの理由で必ず生まれてしまう端材をアップサイクルしています。「端材から作る木のしおり」のワークショップは、「木製品を使うことがなぜエコなのか？」などの疑問を大人から子どもまで学ぶ機会となっています。「木工体験の基本は、何より楽しいこと！その上で、今地球で何が起こっているのか、自分たちは何ができるのかを、子どもたちが考えられるワークショップにしたいと思って、内容をあれこれ思案中です」と玉木さん。

○まとめ

石川町へＵターンした数か月後、建具職人であった父を亡くし「誰かの支えの尊さを実感し、これからは沢山の誰かを支えていきたいと思います」と玉木さん。これまで培った森林・林業のノウハウを活かしながら、次世代の子どもたちや地域のためにさまざまなことに挑戦したいと考えています。木工をとおして今後も幅広い活躍が期待されます。

ワークショップの様子とクリスマスツリー

県森連いわき共販における木材市況（２月分）

令和６年３月１日
福島県森林組合連合会

（単位：㎥当り千円）

素材					
樹種	長級（m）	径級（㎝）	高値	低値	摘要
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10～13	14.0	13.5	
		24上	12.4	12.1	
	3.65	16上			
		24上	12.5	12.2	
	3.00	9下	10.2	8.0	
		10～13	12.0	11.5	
		14～16	12.3	11.5	
		18～20	14.8	14.0	
		22上	14.8	14.1	
	6.00	16～20			
	2.00	16上	7.5	6.0	
ヒノキ	4.00	10～13			
		14～16	12.8	12.1	
		18～20	20.1	19.1	
		22上	20.1	19.5	
	3.00	16～20	15.2	15.0	
アカマツ	4.80	18～22			
	4.00	18～22			
		24上			
	3.00	16～22			
		24上			

素材					
樹種	長級（m）	径級（㎝）	高値	低値	摘要
カラマツ	4.00	12下			
		13～14			
		16上			
クリ	4.00	16上	16.0	15.0	
	3.00	16上			
モミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	３月の共販日
入荷は良好です。販売量は3,301㎥（前年同月比68％）でした。 市況は、スギ3.00m柱材、中目材ともに若干落ち着いてきました。スギ3.65m、4.00m材も同じ状況です。 スギ大径材（40㎝上）は4.00mが応札ありますので出材方よろしくお願い致します。	７日㈭ 18日㈪ 27日㈬

行事とお知らせ
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会　木材市況　検索

森から聞こえる声

福島県南会津農林事務所　髙田　真大朗

夜の森からは様々な鳴き声が聞こえてきます。多くの人に馴染みのあるフクロウの囀（さえず）り、ブッポウソウと鳴くことから長らく名前を間違えられていたコノハズクの囀り、かつては鵺（ぬえ）という妖怪の声として恐れられていたトラツグミのか細い囀り、etc.

例を上げ出すと切りがありませんが、そんな多様な声の中でも南会津で特に良く聞くのは〝ニホンジカ〟（以下、シカ）の鳴き声です。シカのあまり居ない地域の方はご存じではないかもしれませんが、シカのオスは繁殖期である秋になると「ラッティングコール」と呼ばれる声で鳥の囀りと同様にメスへのアピールや他のオスへなわばりの主張を行います。その声は条件次第で一キロメートル以上先まで届くほどで、南会津では秋を感じさせてくれる一つの要素になっています（俳句の世界でも「鹿の声」は秋の季語になっているそうです）。昨今、何かと話題になるシカですが、もしも鳴き声を聞いたときはこんな話もあったと思いだしていただければ幸いです。

さて、県内ではシカの分布が徐々に広がっており、南会津でも造林木への被害はないものの、局所的には下層植生の衰退が既に発生している状況となっております。当事務所でも被害判別表を配布するなどの対応を進めておりますので、他地域の皆さんと取組内容の情報交換を行うことで、より効果的な対策を講じていければと思います。

また、最後にはなりますが、皆さんも夜の森に耳を傾けてみるとシカに限らず様々な気付きがあるかもしれませんよ。

はなしのひろば

イヤリング

所用で南相馬市原町区へ行く機会があり、仙台駅から常磐線上りに乗車した。各駅停車でいく原ノ町駅は遠いが、車窓の景色を飽きずに眺めていった。平日の午後ということもあり、乗車する人はまばらだったが、時折高校生の集団が二～三駅間乗車し、車内は一気に活気づく。（東日本大震災の時、この高校生たちは、三、四歳くらいだったろうか…）などと思いを馳せていると、新地駅から一人の少女が乗車してきた。少女は、私と同じボックスの対面に腰をおろしたが、すぐに微睡（まどろ）み始めた。少女の微睡みと一緒に揺れるガラスのイヤリング。ちょうど車窓からの西日を受けて、小さくキラキラと輝いてとてもきれいだ。その輝きを眺めながら「琴男ｋｏｔｏｍｅｎ　大川義秋さん」の楽曲がふと過（よぎ）ってきた。大川さんは、双葉町出身で二〇一一年埼玉県に避難、転校先の高校の部活動で「琴」に出会ったという。演奏の時の衣装も自作、譜面には、感情を移入するために色別をしている。東日本大震災から九年後の三月に「時の風に乗って」を発表した。時を同じくして、三月十四日には、常磐線が全線開通。ふる里の風が常磐線とともに、また行き来し始めた。今、その曲を聴くと、心の琴線を震わす十三年目の時の風だ。そして、常磐線の揺れに、この十三年の時の流れをしみじみと感じ入った。

少女の耳元にまとった春まだ浅い光は、必ず明るい光の春へと向かっていくだろう。そんな願いともつかない思いで、原ノ町駅で少女を乗せた列車を見送った。

（都）

表紙の写真

「Wood Chips」

第20回ふくしま森林・林業写真コンクール
特別賞(学生の部)／(公社)福島県森林・林業・緑化協会長
受賞者　飯山悠大さん(いわき市)
撮影場所：いわき市田人
コメント：伐採時の木屑が飛び散る様子を撮った１枚

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　飯沼　隆　宏
陽光社印刷株式会社
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

○野生山菜等の採取及び出荷・販売について

福島県林業振興課

今年も山菜の季節となりました。国から出荷を制限されている市町村から採取された野生山菜等は出荷・販売、飲食店や宿泊施設などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができませんのでご注意ください。なお、野生山菜等の出荷制限については福島県林業振興課のホームページで最新の情報をご確認いただくか、県農林事務所にお問い合わせください。検索ワードは「福島県　山菜　出荷制限」です。

また、出荷が制限されていない市町村で採取された野生山菜等の出荷を希望する場合は、出荷前にモニタリング検査を行う必要がありますので、県農林事務所までご相談ください。

安全な野生山菜等の流通を図るため、皆様のご協力をお願いします。

○連絡先一覧

市町村名	事務所名	住所・連絡先
福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡・安達郡の町村	県北農林事務所（森林林業部）	福島市杉妻町２－16（福島県庁北庁舎５階） 024-521-2632
郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡・石川郡・田村郡の町村	県中農林事務所（森林林業部）	郡山市麓山一丁目１－１ 024-935-1367
白河市、西白河郡・東白川郡の町村	県南農林事務所（森林林業部）	棚倉町大字関口字上志宝50－１ 0247-33-2123
会津若松市、喜多方市、耶麻郡・大沼郡・河沼郡の町村	会津農林事務所（森林林業部）	喜多方市松山町鳥見山字下天神６－３ 0241-24-5734
南会津郡の町村	南会津農林事務所（森林林業部）	南会津町田島字根小屋甲4277－１ 0241-62-5375
相馬市、南相馬市、相馬郡の町村	相双農林事務所（森林林業部）	南相馬市原町区錦町一丁目30 0244-26-4305
双葉郡の町村	富岡林業指導所	富岡町小浜553－２ 0240-23-6084
いわき市	いわき農林事務所（森林林業部）	いわき市平字梅本15 0246-24-6193

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（ 仙台支店 ） 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（ 本社 ・ 工場 ） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（ 支　　店 ） 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島三月号 通巻第七一五号
令和六年三月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 飯沼 隆宏
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一一〇円（税込）
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

RICOH

東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60ー1 TEL 024-961-1961

https://t-copy.co.jp